

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成30年度技術情報第6号（野菜類の菌核病）について（送付）

野菜類の菌核病が早い時期から発生しています。今後の発生に注意してください。

## 平成30年度技術情報第6号

- 1 農作物名** 野菜類（キャベツ、ハクサイ、キュウリ、メロン、トマト、ピーマン、ナス、イチゴ等）
- 2 病害虫名** 菌核病
- 3 予報内容**
  - (1) 発生地域 県本土、熊毛地域
  - (2) 発生時期 早い
  - (3) 発生量 やや多
- 4 情報の根拠**
  - (1) 10月の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率が8%（平年2%）とやや高く（図1）、施設ピーマンでも発生ほ場率6%（平年3%）と発生がみられる（図2）。
  - (2) 病害虫診断依頼において施設トマト等での発生を確認している。
  - (3) キャベツでは昨年の初秋まき作型の発生が多かった（図1）ため、伝染源が多いと予想される。
  - (4) 向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予報されており、発病しやすい条件が続くと予想される。
- 5 防除上注意すべき事項**
  - (1) 17～20℃前後の冷涼、多湿条件で発生しやすいので、天候に注意し、予防散布に努める。
  - (2) 主な伝染源である子のう胞子は、秋から初冬または春に飛散するので、この時期の散布を心がける。
  - (3) 病原菌は地際部や枝分岐部付近から感染しやすいので、薬剤は対象部位へ十分かかる様に散布する。
  - (4) 同一の作用特性を有する薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
  - (5) 地表近くにある菌核が第一次伝染源となるので、施設栽培ではマルチにより全面を被覆すると発病が少なくなる。
  - (6) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉、枝、果実等は見つけ次第取り除く。
  - (7) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外へ持ち出し処分する。
  - (8) 収穫終了後の残渣はほ場外に持ち出す等、適正に処分する。

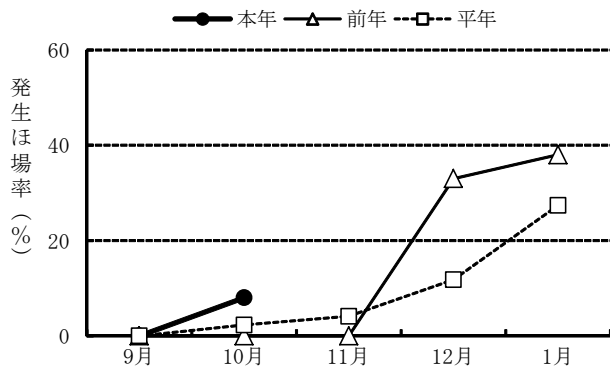


図1 菌核病の発生ほ場率 (キャベツ)

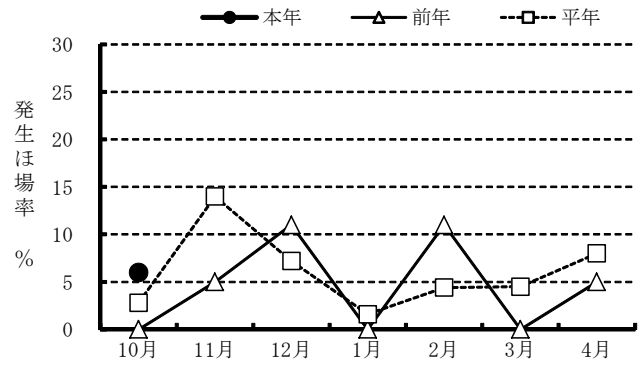


図2 菌核病の発生ほ場率 (ピーマン)

【参考 (キャベツでの主な感染発病推移)】



株元に子のう盤を形成



葉柄基部から感染



病斑上に菌核を形成